

武豊騎手&競馬界等 主な足跡

1969年	誕生(3月15日)
1984年	JRA競馬学校入学(4月)
1987年	騎手デビュー(3月1日 阪神第4R、2着) 初勝利(3月7日 阪神第3R) JRA賞最多勝利新人騎手(歴最多の69勝) 日本中央競馬会が略称として「JRA」を制定 国内外の一流騎手が参加した「国際騎手招待競走」が阪神競馬場で行われる(翌年よりワールドスーパージョッキーズシリーズに)
1988年	スーパークイックで菊花賞を制し、JRA史上最年少(19歳7カ月)でのクラシック制覇(11月6日 京都競馬場)
1989年	海外のレースで初勝利(9月2日 米アーリントン競馬場、グランマジー) 年間133勝で初のJRA全国リーディング獲得
1990年	有馬記念でオグリキャップを復活Vに導く(12月23日 中山競馬場)
1991年	日本人騎手として初の海外重賞制覇(8月22日 米サラトガ競馬場、GⅢセネカH、エルセニョール) 競走中の進路妨害に適用される「降着制度」を実施
1992年	所属の武田作十郎厩舎の解散にともないフリーに転向 メジロマックイーンに騎乗し、史上初の天皇賞・春4連覇を達成(4月26日) 国際セリ名簿作成基準委員会がジャパンCを国際GⅠ競走に認定
1993年	ベガで桜花賞、オークスを、ナリタタイシンで皐月賞を制し、春のクラシックを3連覇 メジロマックイーンが京都大賞典を制し、史上初の総収得賞金10億円を達成(10月10日)
1994年	日本人騎手として初の海外GⅠ制覇(9月4日 仏ロンシャン競馬場、GⅠムーランドロンシャン賞、スキーパラダイス) ニュージーランドのリザクロップ騎手が来日し、外国人騎手への短期免許交付制度の適用第1号に
1995年	JRA通算1000勝達成(7月23日 小倉第3R) スキーキャプテンで米GⅠケンタッキーダービーに騎乗(5月6日 チャーチルダウンス競馬場、14着) 阪神・淡路大震災が発生、阪神競馬場も甚大な被害を受ける(1月17日)
1996年	年間最多勝利記録(岡部幸雄騎手の138勝)を更新し、最終的に159勝を挙げる 第1回バイワールドCが行われる(3月27日)
1997年	史上2人目のJRA全10場重賞制覇を達成(7月27日 函館3歳S、アグネスワールド) 年間168勝を挙げ、JRA賞最多勝利騎手、最高勝率騎手、最多賞金獲得騎手となり、自身初の騎手大賞に 中央・地方のダート競走統一グレードが決定される(3月6日)
1998年	日本ダービー初制覇で、史上2人目の旧8大競走完全制覇(6月7日 東京競馬場、スペシャルウィーク) 史上初の日本調教馬によるGⅠ制覇(8月9日 仏ドーヴィル競馬場、GⅠモーリスドゲスト賞、シーキングザパール) 仏GⅠジャックルマルロウ賞でタイキシャトルが勝利し、日本調教馬が2週連続で海外GⅠ制覇
1999年	史上初となる日本ダービー連覇(6月6日 東京競馬場、アドマイヤベガ) 仏GⅠアペイドロンシャン賞をアグネスワールドで制し、2年連続日本調教馬で海外GⅠ制覇(10月3日 ロンシャン競馬場) ノーザンファーム生産のシーヴァが愛GⅠタタソールズゴールドCに勝利し、日本産馬初の海外GⅠ制覇(5月23日 カラ競馬場)
2000年	アメリカ西海岸に活動拠点を移す 英GⅠジュライCをアグネスワールドで制し、3年連続日本調教馬で海外GⅠ制覇(7月13日 ニューマーケット競馬場) 米GⅠケンタッキーダービーでフサイチペガサスが勝利し、日本人所有馬として史上初の同レース制覇
2001年	フランスに活動拠点を移す 仏GⅠアペイドロンシャン賞をインベリアルビューティーで制し、海外GⅠ5勝目(10月7日 ロンシャン競馬場) GⅠ香港ヴァーズをステイゴールドで制し、4年連続日本調教馬で海外GⅠ制覇(12月16日 シャティン競馬場) 馬の年齢表記について、1月1日から従来の数え年から満年齢に変更 GⅠレースでは審議の有無にかかわらずパトロールビデオを公開することに
2002年	史上初となる日本ダービー3勝目(5月26日 東京競馬場、タニノギムレット) JRA通算2000勝達成(9月21日 阪神第12R) 1日8勝のJRA新記録を達成(12月7日 阪神競馬場) 香港GⅠクインエリザベスⅡCでエイシンプレストンとアグネスデジタルが1、2着となり、初の海外GⅠで日本調教馬ワンツーを決める(4月21日 シャティン競馬場) 種牡馬サンデーサイレンスが死亡(16歳)
2003年	前人未到の年間200勝を達成(12月27日 阪神第1R)、最終的に年間204勝
2004年	連敗記録で話題のハルウララに騎乗(3月22日 高知競馬、10着) 地方通算100勝を達成(3月31日 川崎競馬場) 海外通算100勝を達成(12月8日 香港ハッピーヴァレー競馬場) ジャパンCとジャパンCダートが同一日、同一場で行われ、GⅠダブル開催(11月28日 東京競馬場)
2005年	史上初となるJRA重賞200勝を達成(2月26日 阪神競馬場、アーリントンC、ビッグブラネット) ディープインパクトで日本ダービー4勝目(5月29日 東京競馬場) ディープインパクトで菊花賞を制し、三冠制覇。JRA GⅠ50勝目(10月23日 京都競馬場) JRA年間最多勝利記録の212勝をマーク(12月24日 阪神第9R)
2006年	ユートピアでUAE-GⅡゴドルフィンマイルを勝利し、日本調教馬初の海外ダート重賞制覇(3月25日 ナダルシバ競馬場) GⅠ7勝を挙げたディープインパクトが引退 GⅠシンガポール航空国際Cでコスモバルクが勝利し、地方所属馬初の海外GⅠレース勝利
2007年	JRA歴代最多勝利記録となる2944勝を挙げる(7月21日 小倉第12R) アスコット競馬場で日本人騎手初となる勝利を挙げる(8月11日) 前人未到のJRA通算3000勝を達成(11月3日 京都第1R) JRA重賞250勝、GⅠ60勝を同時に達成(11月24日 東京競馬場、ジャパンCダート、ヴァーミリアン) 日本が「パートⅡ」国に昇格 ウオッカが、64年ぶりとなる牝馬による日本ダービー制覇(5月27日 東京競馬場)
2008年	ウオッカで、歴史的な勝負と言われる天皇賞・秋に勝利(11月2日 東京競馬場)
2009年	ウオッカでヴィクトリアマイルを制し、牝馬限定GⅠ完全制覇(5月17日 東京競馬場) 父である武邦彦調教師が定年のため引退
2010年	日本騎手クラブの会長に就任(9月16日) ローズキングダムでジャパンCを制し、23年連続JRA GⅠ勝利(11月28日 東京競馬場) この年デビューしたディープインパクト産駒がJRA通算41勝、獲得賞金5億3704万3000円を記録し、ともにサンデーサイレンスの記録を更新
2011年	ノーザンリパーでアーリントンCを制し、デビュー以来、25年連続JRA重賞勝利(2月26日 阪神競馬場) 世界のトップジョッキーによる対抗戦「英シャーガーC」の2レース目で勝利、1日を通して最も素晴らしい騎乗を称える「ライド・オブ・ザ・デイ」に選出される(8月6日 アスコット競馬場) 東日本大震災が発生(3月11日) ヴィクトワールピサがUAE-GⅠドバイワールドCを勝利(3月26日)

シツクを勝ったとしても、『来年は凱旋門賞』と頭に浮かぶようなことはなかった。でも、今はそれが夢ではなく、選択肢のひとつになっている。この20数年で日本のホースマンが力を合わせて引き寄せた現実だと思う。そう考えると、時間の流れを感じますね」

こうした過去をふり振り返りながらのインタビューでときどき彼が言うのは、「あの馬に今乗りたい」ということだ。「この前もイギリスのキングジョージVI & クイーンエリザベスSをテレビで見ながら、『おれ、あの年齢でこのレースに出ていたのか』と思いました。ホワイトマズルで参戦したのは25歳のときでしょう。今、もう一回チャンスがほしいですね。」

絶対とは言えませんが、違った答えを出すことができるかもしれない」

勝ち鞍などの数字を目標にすることがないのは以前のままで。

「だって、例えば『100勝したい』と口に出してしまうと、まるで100勝することを目標に乗っているみたいじゃないですか。想像もできなかったいい字を言って、自分を縛る必要はないと思います。今の自分が、昨日の自分より上手くなっているようにしたい——と考えることが変わらないういだから、当然ですよ。唯一目標があるとしたら、還暦まで騎手をつづけることかな(笑)」

記録に関してはどうか。

「史上初とか最年少とつく記録をずいぶんつくったような気がしますが、結果として記録になっただけです。三浦皇成君が更新した新人最多勝利記録なんか、よく今までもったと思います。また年間100勝ぐらいする新人が出ると思いますが、今のほうが、波に乗ってしまえばそういう状況をつくりやすいですからね」

キャリアを重ね、さらに騎手会長になったことも影響したのか、被災地訪問がそうだったように、自らの役割、「武豊の仕事」とでも言うべきものを意識して動くようになったように見える。

「馬に乗ってこそ『騎手・武豊』なので

が、いろいろプラスのものも残してくれると思うんです。ブームだから競馬を知った、という人もいるでしょうしね」

長引く不況や震災の影響でJRAの売上げが苦戦していることに関してはどう考えているのか。

「理由はひとつではないと思いますが、一番は、4兆円売れたころとは娯楽の数が違うことでしょうね。ぼくら騎手がすべきことは、まず、競技としての質を上げていくことだと思います。今はコンピュータが発達しすぎて、競馬場に行かなくても馬券を買うようになり、ファン

の質も変わってきているでしょう。でも、競馬場に来ないと感じる事ができないことはたくさんあるし、それを前面に出していかないとつづかないと思う。騎手同士でよく話すのは、馬券で負けた人も『きょうは来てよかった。また来週も来ようかな』という話をしながら家路についてもらえるようなレースを見せていかなくてはならない、ということ。その瞬間、自分が現場にいた喜び、絶対でありますね。例えば、『おれはディープインパクトのダービーを生で見たんだ』とか『クロフネのジャパンCダートのとき、実はおれ東京競馬場にいたんだ』と先々まで言ってもらえるような競馬をしていきたいですね」

「理由のひとつではないと思いますが、一番は、4兆円売れたころとは娯楽の数が違うことでしょうね。ぼくら騎手がすべきことは、まず、競技としての質を上げていくことだと思います。今はコンピュータが発達しすぎて、競馬場に行かなくても馬券を買うようになり、ファン

「馬に乗ってこそ『騎手・武豊』なので

が、いろいろプラスのものも残してくれると思うんです。ブームだから競馬を知った、という人もいるでしょうしね」

長引く不況や震災の影響でJRAの売上げが苦戦していることに関してはどう考えているのか。

「理由はひとつではないと思いますが、一番は、4兆円売れたころとは娯楽の数が違うことでしょうね。ぼくら騎手がすべきことは、まず、競技としての質を上げていくことだと思います。今はコンピュータが発達しすぎて、競馬場に行かなくても馬券を買うようになり、ファン

「馬に乗ってこそ『騎手・武豊』なので

が、いろいろプラスのものも残してくれると思うんです。ブームだから競馬を知った、という人もいるでしょうしね」

長引く不況や震災の影響でJRAの売上げが苦戦していることに関してはどう考えているのか。

「理由はひとつではないと思いますが、一番は、4兆円売れたころとは娯楽の数が違うことでしょうね。ぼくら騎手がすべきことは、まず、競技としての質を上げていくことだと思います。今はコンピュータが発達しすぎて、競馬場に行かなくても馬券を買うようになり、ファン

「馬に乗ってこそ『騎手・武豊』なので

が、いろいろプラスのものも残してくれると思うんです。ブームだから競馬を知った、という人もいるでしょうしね」

長引く不況や震災の影響でJRAの売上げが苦戦していることに関してはどう考えているのか。

「理由はひとつではないと思いますが、一番は、4兆円売れたころとは娯楽の数が違うことでしょうね。ぼくら騎手がすべきことは、まず、競技としての質を上げていくことだと思います。今はコンピュータが発達しすぎて、競馬場に行かなくても馬券を買うようになり、ファン

